

令和6年度 浜松市立光が丘中学校

第3回 学校運営協議会



令和6年12月10日（火） 13：30～

光が丘中学校 会議室

<次第>

- | | |
|----------------------------------|---------|
| (1) 開会の言葉 | 13 : 30 |
| (2) 開催要件の確認 | 13 : 30 |
| (3) 会長挨拶 | 13 : 30 |
| (4) 校長挨拶 | 13 : 33 |
| (5) 授業参観（教科等は下記参照） | 13 : 40 |
| (6) 議長選出 | 13 : 55 |
| (7) 前回会議録確認 | 14 : 00 |
| (8) 熟議 | 14 : 03 |
| ①休日の部活動地域移行について | |
| ②学校評価の進め方について | |
| ③来年度学校に期待することと、学校運営協議会として協力できること | |
| (9) 連絡事項 | 14 : 57 |
| ・学校運営協議会委員の任期について | |
| ・第4回学校運営協議会の予定について | |
| 令和7年1月30日（木）13 : 30～ | |
| (10) 閉会の言葉 | 14 : 59 |

【 授業参観 】

学級	1 A	1 B	2 A	2 B	3 A	3 B	F 組
教科等	数学	英語	学級 閉鎖	国語	音楽	保健体育	社会
授業者	大庭	勇太		北村	藤原	公哉・島田	青島
場 所	1 A	1 B		2 B	音楽室	運動場	F 組

F 組は発達支援学級（知的）

令和6年度 浜松市立光が丘中学校 学校運営協議会 委員名簿

氏名	役職	備考
甘蔗 孝仁	浜松市立光が丘中学校 同窓会長 天竜東地区民生児童委員	会長
青山 敏郎	人権擁護委員 天竜地区会長	
溝口 玄	竜川ふれあいセンター活動推進委員会 委員長	
笹竹 和行	光明ふれあいセンター活動推進委員会 委員長	学校支援 コーディネーター
松井 章泰	光が丘中学校区青少年健全育成会 会長	副会長
森下 智子	天竜東地区主任児童委員・民生委員	
實森 浜代	天竜東地区主任児童委員・民生委員	
坂井 久司	龍山地区主任児童委員・民生委員	
瀧澤 文	浜松市立光が丘中学校 P T A 会長	

●運営組織の決定について ～ 浜松市学校運営協議会規則第14条3より ～

- ①会長1名を互選により選出する。
- ②副会長を会長の指名により選出する。
- ③議長は出席した委員の互選により、その都度定める。

【 学校 】

氏名	役職	備考
山下 拓	浜松市立光が丘中学校 校長	
瀬戸 一志	浜松市立光が丘中学校 教頭	
石田 真	浜松市立光が丘中学校 教務主任	C S 担当職員
横山貴美恵	浜松市立光が丘中学校 校務アシスタント	C S ディレクター

学年構成並びに学校運営組織

学 年 構 成			1 年	2 年	3 年
	学年主任		内山 克行(社)	鈴木 公哉(体)	大庭 篤(数)
	学級 担任	A 組	島田 翔太(体)	小笠原和美(数)	北村 和輝(国)
		B 組	鈴木 勇太(英)	内山 大輔(社)	内山 涼恵(国)
		F 組	青島 麻里(体)		
学年付		櫻田 里奈(理)		藤原康幸(音・技)	

学 年 外 職 員 及 び 主 任 ・ 主 事 等	校長	山下 拓	教頭	瀬戸 一志	教務主任	石田 真
	養護教諭	川瀬 眞生	事務主任	杉山 裕美	ALT	マデリン・トレズ
	生徒指導主事	内山 涼恵	進路指導主事	藤原 康幸	研修主任	櫻田 里奈
	非常勤講師(理)	櫻井 謙治	非常勤講師(美)	白柳まどか	非常勤講師(家)	磯部 唯
	校務アシスタント	横山貴美恵	図書館補助員	田中 順子	スクールカウンセラー	杉浦麻里絵
	スクールソーシャルワーカー	後藤幸一郎	シルバー用務員	唐沢 重春・加藤 悦子・西村 英子・小出 住子		

< メモ >

令和6年度 浜松市立光が丘中学校 グランドデザイン

校訓

校区の目指す子ども像

試す人 信頼される人 夢ある人



学校教育目標

未来を拓く生徒の育成

～「試す人」挑戦する生徒～



学校経営目標

「一枚岩の生徒指導体制で、自立の基盤となる能力や態度を育成する」

確かな学力

令和6年度の重点

- ◎研修テーマ「主体性を育む授業づくり」
 - ・生徒が自ら考え、判断し、他者と共同して課題に取り組む授業。
 - ・「主体性」に焦点を当てた授業改善。
- ◎基礎基本の定着
- ◎ICTを活用した授業



豊かな感性

令和6年度の重点

- ◎あいさつ運動の充実（社会性の育成）
- ◎思いやりの心の育成（人権の尊重、多様な生き方・考え方への理解）
- ◎道徳授業の工夫・充実
- ◎自己肯定感を高める支援
- ◎体験活動の充実



たくましい心身

令和6年度の重点

- ◎活気と潤いあふれる学校行事の推進（伝統の尊重と新たな工夫）
- ◎自分らしさを大切にする生き方指導
- ◎健康意識の増進
- ◎地域行事への積極的な参加



《安全・安心な教育環境整備》

- ・安全・安心のため、校内の物的環境の整備を図る。
- ・体罰や不適切な言動、いじめや差別のない、人間尊重に基づく人的環境を整える。
- ・大雨等の災害時の対応周知など安全確保のための情報を確実に共有・発信する。

《地域に開かれた学校づくり》

- ・PTA 活動、校区内の小学校・園、社会教育施設、福祉施設との連携・協働を通して地域の人材や学習資源を生かした教育を推進する。
- ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会）、青少年健全育成会と連携する。
- ・学校だより、学校ホームページでの情報発信に努める。

令和6年度 第2回 光が丘中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年9月27日（金） 午後1時30分から午後3時10分まで
- 2 開催場所 浜松市立光が丘中学校 会議室
- 3 出席委員 甘蔗 孝仁、青山 敏郎、溝口 玄、笹竹 和行、森下 智子
實森 浜代、坂井 久司、瀧澤 文
- 4 欠席委員 松井 章泰
- 5 学 校 山下 拓（校長）、瀬戸 一志（教頭）、横山 貴美恵（CSディレクター）
- 6 教育委員会 井島 健蔵（教育総務課）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 横山 貴美恵
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、輪番により松井委員となるが、欠席のため、会長より青山委員にお願いしたいとの発言があり、全員異議なくこれを承認した。本日は、青山委員が議長を務めることとなった。

10 熟 議 事 項

- （1）学校評価アンケートの結果をふまえた、今後の学校運営の在り方について
- （2）休日の部活動地域移行について

11 会 議 記 録

司会の教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

- （1）学校評価アンケートの結果をふまえた、今後の学校運営の在り方について

議長の指示により、教頭より学校評価アンケートの結果について、資料（6～9頁）に基づき説明があり、また、校長より学校評価アンケート結果をふまえた、今後の学校運営の在り方について、資料（10、11頁）に基づき説明があり、委員からは、授業参観および行事参観の感想も含め、以下の発言があった。

●資料6頁の5、6番について、◎と○はどちらも数値が高いと思うが、どう判断していけばよいか。（笹竹委員）

→◎と○の数値が表すように、心理的な境の判断が難しく、（加害、被害）双方の生徒の思いの違いと、その対応の違いの表れと思う。生徒からの申し出（嫌な思いをした等）があれば記録し、即急に対応しているが、広い意味ではいじめに含まれるような、「冷やかし」とされることの多いレベルをいじめとして分類した場合、「加害生徒の保護者」として連絡することになり、（その判断と対応が）難しい。（教頭）

→中学の指導は、教科別に先生が違うこともあり、小学校のいじめ問題と違って対応が難しいように思う。（溝口委員）

- アンケート結果から、全体的に自分に対する評価が低いように思う。(瀧澤委員)
- 生徒本人と保護者の認識の違いについては、父と母でも違うと思うが、保護者は経験もあり、子供は信頼しているのでいいように思う。(坂井委員)
- 生徒は自己評価が低いように思う。(相談されたことを) 丁寧に聞いてあげられるとよい。大人しい子だと自分から言えないこともあり、お忙しいとは思いますが時間をとってあげてほしい。(實森委員)
- 文化発表会では、ダンス等自分を表現できる場があって良いが、反対に、辛い思いをして出席できていない子達の事が頭の中をよぎり気になった。(實森委員)
- 普段欠席が多い子が、文化発表会に、客席まで応援に来てくれた。(校長)
- 季節の変化を普段から気にしている子なのか、授業で季節に関する質問が出たとき、すぐ答えられているのが良い。思春期の子について、親子の対話が少なく、知り合いの子等から教えてもらって知ることもあり、対応が難しい。(森下委員)
- 思春期はいろいろあり、難しい時期ではある。以前は紙でのアンケートだったが、今のアンケートはタブレットで行い、結果の集計もすぐ出る。(生徒も紙より) 回答しやすい面があり、状況が上がってきやすいと思う。(校長)
- 子供をどう育てようとしているのか。挨拶は人間を成長させるのに一番いい方法。挨拶することは大切だが、なぜ大切か分かっていることが大切。前から誰が来ているか(年齢、身なり、行動、表情等)を観察し、それによってどう対応するのか(敬語を使うのか等)を判断する力を養うことにも繋がる。(青山委員)
- 挨拶は社会と繋がることのできる大切なことだと、子供たちに伝えた。(校長)

協議の結果、「学校評価アンケートの結果をふまえた、今後の学校運営の在り方について」は、承認不要とした。

(2) 休日の部活動地域移行について

議長の指示により、教頭・校長から休日の部活動地域移行について、資料(12、13頁)を用いて説明があり、委員からは以下の発言があった。

- 休日は社会教育の一環ということだが、どこの管轄か。地域移行自体は浜松市地域部活動検討委員会がやっているが、今後どこが管轄するか決まっているか。(笹竹委員)
 - 休日の大会等も含め、いつから移行するのか。小学生で部活の有無によって中学校を決める人もあり、それらも含めて保護者の間で話題に上がっている。(瀧澤委員)
 - まだ決まっていない。今後変更があるかもしれない。(校長)
 - 大会参加する場合に、チーム名はどうなるのか。学校名か各チームで決めた名前か。(溝口委員)
 - まだこれから決まっていくが、決まり次第お知らせする。(校長)
 - 各部活動について、以下のような状況である。
- 野 球 部：天竜区内4校からなる生徒、保護者が指導対応している。
- 今後地域クラブに発展する可能性がある。

剣 道 部：今後クラブを立ち上げる可能性がある。

男女バレーボール部：保護者がクラブを立ち上げている。

男子ソフトテニス部：保護者がクラブを立ち上げ、外部コーチが指導している。

陸 上 部 ・ 卓 球 部：まだそのようなクラブができていない。

(校長)

協議の結果、「休日の部活動地域移行について」は、承認不要とした。

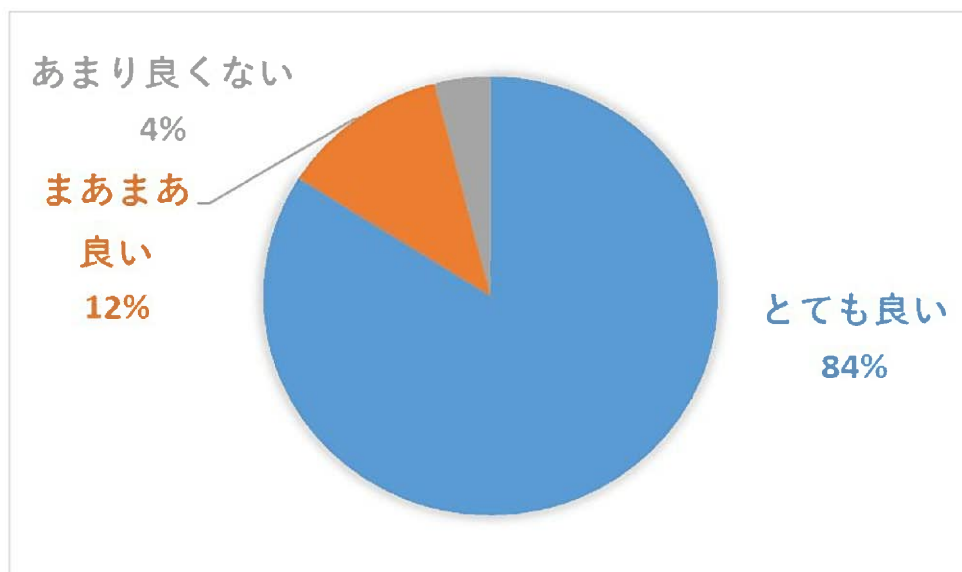
【その他報告事項等】

- 司会の教頭から、創立 20 周年に関する取り組みについて、資料末頁を用いて説明があった。
- 司会の教頭から、次回会議は、令和 6 年 1 2 月 1 0 日（火）午後 1 時 3 0 分から会議室で開催する旨の説明があった。
- 司会の教頭より、11 月 1 日（金）に体育祭を開催する旨の説明があった。
- 笹竹委員より、ミュージカル（本校生徒も数名参加している）について、別紙資料（4 枚）を用いて、お知らせがあった。

- 1 何年生ですか。
- 2 何組ですか。
- 3 光が丘中は、安心して過ごすことができる場所だ。
- 4 光が丘中には、自分のやりたいことに挑戦できる機会がある。
- 5 光が丘中は、自分の生き方について真剣に考える機会がある。
- 6 光が丘中の先生は、自分によく声を掛けてくれる。
- 7 何かあったとき、光が丘中の先生には相談をしやすい。
- 8 光が丘中の先生は、(自分のことをよく見ていて) 良いところを言ってくれる。
- 9 光が丘中の先生は、(自分のことをよく見ていて) 課題もちゃんと言ってくれる。
- 10 光が丘中学校では、命の大切さを深く考える機会がある。
- 11 光が丘中の仲間はやさしく、困っているときには助けてくれる。
- 12 自分は相手の立場や性格を考えて接することができている。
- 13 光が丘中では、生徒はあいさつを大切にし、自ら挨拶をしようとしている。
- 14 自分は、家族や地域の方に対して、進んで挨拶ができている。
- 15 光が丘中では、様々な活動を通して集団のルールやマナーを教えてくれている。
- 16 光が丘中の授業では、目標や課題が明確に伝えられ、何を頑張ればよいかがわかりやすい。
- 17 光が丘中の授業では、課題をクリアすることで力がついていっていると感じる。
- 18 光が丘中の授業では、仲間と協力して課題解決に取り組んでいる。
- 19 光が丘中の先生は、生徒個人の力を考えてフォローをしてくれたり、質問に丁寧に答えたりしてくれる。
- 20 学習には、自ら進んで取り組むことができている。
- 21 自分は、学級・学年の行事や、生徒会の活動に、協力して全力で取り組もうとしている。
- 22 自分は、家族とちゃんと話をすることができている。
- 23 自分は近所の人達とも話をすることができている。
- 24 自分には、今、全力で打ち込めるものがある。
- 25 自分には、将来、やりたいことや挑戦したいことがある。
- 26 家族と、自分の考えや学校のことなどをよく話す。
- 27 悩みや困ったことがあるときは、家族に相談している。
- 28 家では、時間をうまく使い、やるべきことと楽しむことの区別をつけ、有意義に時間を使っている。
- 29 家族は自分のがんばりを理解し、認めてくれたり、褒めたりしてくれる。
- 30 家族は自分のがんばりを理解し、時には背中を押してくれる。

- 1 お子さんは何年生ですか。(任意)
- 2 光が丘中は、子供にとって安全で、安心して通うことができる場所である。
- 3 光が丘中は、子供がやりたいことや夢に向かって挑戦でき、自分の生き方について考えることができる場所だ。
- 4 光が丘中職員は、子供一人一人を大切にし、良さを認めたり、直すべきことは注意したりしてくれる。
- 5 光が丘中職員は、子供一人一人を大切にし、困っている時は手を差し伸べたり、相談に乗ったりしてくれる。
- 6 光が丘中では、生命を大切にすることや、いじめの苦しさとその影響を教えている。
- 7 光が丘中では、自分と人の違いを受け入れ、お互いを尊重すべきだと教えている。
- 8 光が丘中は、あいさつやマナー、礼儀や社会のルールなどを様々な場面で教えている。
- 9 子供は、家族や地域の方に対して挨拶がよくできている。
- 10 光が丘中の授業では、基礎的な学力が身に付いている。
- 11 光が丘中の授業では、子供の理解を深めたり、意欲を高めたりする工夫がされている。
- 12 光が丘中は、一人一人の成長を意識し、個に応じて学習指導している。
- 13 光が丘中は、学級・学年行事、生徒会活動や部活動など、子供が生き生きと取り組み、活躍する場を豊富に設けている。
- 14 光が丘中は、常日頃から相談しやすく、家庭や地域と連携して教育活動を進めている。
- 15 学校のブログや便りは、子供の様子を知るのに役立っている。
- 16 家庭で、子供は学校のことをよく話す。
- 17 家庭では、子供と一緒に将来の夢や、生き方について話す機会がある。
- 18 子供は、悩みや困ったことがあると、家族に相談している。
- 19 子どもは目標を立てたり、自分で方法を考えるなど工夫したりして、自ら進んで家庭学習に取り組んでいる。
- 20 家庭で、子供は自由な時間をうまく使い、有意義に過ごしている。
- 21 家庭では、日々の生活の中で子供の良さや頑張りを意識して見つけ、褒めたり認めたりしている。
- 22 光が丘中の「生活のルールやマナー」について、改善や見直しをする必要がある。
- 23 改善や見直しを希望する「生活のルールやマナー」があれば、御記入ください。
- 24 家庭では、スマートフォンの使い方やルール、SNS の利点や危険性についてお子さんと一緒に考えたり、確認したりする機会がある。
- 25 家庭では、社会で大切となるルールやマナーについてお子さんと一緒に話をしたり、共有したりする機会がある。

- ① 調理実習の時に地域の方々がボランティアで手伝ってくれることについて、どう感じていますか？



- ② 手伝っていただいて思ったこと、感じたことを書いてください

○肯定的回答

- ・魚の捌き方など、難しかったり、経験がなかったりすることについて、コツなどを分かりやすく教えてくれたり、手伝ってくれたりする
- ・いざという時に頼れるので、安心感がある
- ・質問したい生徒が多い時に、先生一人だとなかなか聞けないが、ボランティアさんがいるとすぐ聞ける
- ・失敗しても優しくフォローしてくれる
- ・食についての様々な知識について教えてくれて、とてもためになる
- ・限られた時間の実習でも、ボランティアの方のおかげで作業効率が上がり、時間内においしく仕上げることができる

△否定的回答

- ・説明や指導が、人によって違うことがあり、戸惑ってしまう